



同社から発売されている2種類のアースケーブルも比較。写真は新発売のXLR仕様で、写真左の白い方がPC-Triple C導体を採用した「Clone1XH/WY」、右の青い方が6NCu+HiFC+PCUHD+OFCの4種ハイブリッド導体を採用した「Clone2XH/WY」※両モデルともオス、メスともに1.2mで¥9,800(税別)。従来から発売されているY-Y(¥7,800/1.2m・税別)、RCA-Y仕様(¥8,800/1.2m・税別)もラインアップ



2台をつないだイメージ

「2種類のアースケーブルを比較
歪み感が1段階下ががる効果
」2はスケール感が出る

続いて、付属アースケーブルから単売品へ交換し、音の違いを確かめてみる。用意してもらったのは同社の「クローン1」と同2、Yラグ/XLRのオスメス各1本ずつである。「クローン1」はPCトリプルCを採用したアースケーブルで、「クローン2」はPCUHDとHiFC、OFCをハイブリッドにした導体構成を持つ。今回のXLRオスメスに加え、両端Yラグと片端RCAタイプも用意されている。

まず「クローン1」をブリの空き端子へ挿して音を聴いたら、音に少し温かみか乗り、特に声の歪感がさらに1段階下がったような気がする。もともと付属ケーブル(片端RCAタイプを使用)もかなり良いものであろう、表現に決して不足はなかったのだが、



新発売の連結式電源タップ「Crystal3P」(¥21,000/税別)。従来のForce barシリーズから素材、構造等の細部にわたって大幅なグレードアップを実現したモデル

Crystal 3P発売記念キャンペーン
「Crystal 3P」の購入者のなから限定100セットにて、同社の電源ケーブル「KS-0P-2m / ヴォーサ OP」(定価:¥4,900+税)の無料セット販売を実施。キャンペーン期間は2020年8月31日(月)23:59 ご注文分まで。受け付けは全国有名オーディオ専門店および同社のダイレクションショップまで

なる、魅力的な製品群なのだ。光城精工の新製品「クリスタルE」は、金属の薄板を積層することで非常に大面積の異種金属間で電位差を吸収するという機構を持つ。これまでにいろいろ聴いてきた仮想アースの中で、機器の持ち味をそのまま生かすつつノイズフロアを下げ、健康な音[※]にしてくれる装置という印象を持つ。本機には端子が2系統装備されていて、これは2台の機器をつなぐのではなく、本機を2台スタックして使うためのものである。今回は1台だけ使ってテストしたが、今回は2台借りることができたので、1台と2台スタック時の音を聴き比

べることとしよう。わが家は郊外の一軒家なので、比較的アース事情には恵まれているが、それでも仮想アース装置の効果は大きい。まずデフォルトから「クリスタルE」を1台つなぐと、音像がより鮮明になって、音場もグッと濃厚さを増し、残響の消え際が美しい。そこで早速2台スタックに挑戦すると、おお、音場の深さがさらに向上し、せり出し気味だった音像がやや奥まった位置に定位するようになったのではないか。これは効果が2倍になったというよりも、もっと向上幅が大きいのではないか。もちろんデフォルトへ「クリスタルE」を1

台組み合わせるだけで大きな向上が見込めるのは確かだが、そこを終着駅とするのは少々もったいない。次のグレードアップ候補として、「クリスタルE」をもう1台というのは、非常に適切な選択であろう。

これは明らかに有意差だ。それでは、「クローン2」へ取り替えてみよう。こちらも付属ケーブルより少し明るい傾向の音で、音楽全体のスケールが増し、奥行きだけでなく張り出しも鮮明化。これらの違い自体は、もちろん「クリスタルE」を加えていった時の差の大きさにはかなわないが、言い替えばアース線1本でも有効な音質チューニングのツールになる、ということだ。これまでもフォノ系のアースケーブルではいろいろ実験してきたが、仮想アースでも実際にしつかり音の違いを味わうことができたのは、私にとっても得難い実験の成果であった。

最後に、同社の増設できる電源ボックス[※]の新製品、「クリスタル3P」を聴こう。筐体の堅牢性を高め、内部配線とハンダの配合を見直した最新開発品である。ディスクプレーヤーをつないだが、一聴して音離れの良さを感じるハイクラスアイテムである。家庭の電源環境が良くない場合は、同社のフォースバースIIPなど、適切なフィルターを連結させれば、さらなる効果を発揮するはず。トータルでハイクラスのボックスである。

最新の「クリスタル3P」を試す
音離れのいい音質を引き出す
連結のメリットも生かせる

なる、魅力的な製品群なのだ。

べることとしよう。

これは明らかに有意差だ。

これは明らかに有意差だ。

最新の「クリスタル3P」を試す



写真は仮想アース「Crystal E」をもう1台増設したケース。増設用のアースケーブルはオプションで白色の「Clone1」(PC-Triple C導体/¥4,800・0.2m)と青色の「Clone2」(6NCu+HiFC+PCUHD+OFCの4種ハイブリッド/¥4,800・0.2m)が選択できる

KOJO TECHNOLOGY Crystal E

仮想アース ¥31,200(税別)

●構成:仮想アース端子台、M4×2端子(ステンレスネジ) ●サイズ:80W×111D×35Hmm(端子や突起物含まず) ●質量:約775g ●付属品:専用アースケーブル×2本(RCA-Y端子とY端子-Y端子※いずれも金メッキ仕様で1.2m ●Y端子サイズ: M6(取り付け推奨ネジサイズM4~6) ●取り扱い:(株)光城精工

光城精工のいま注目のグレードアップアイテムを紹介

効果は“2倍以上” 人気の仮想アース、増設の提唱

前号でも紹介した光城精工の仮想アース「Crystal E」がこのコロナ惨禍でも、空前の大ヒットを遂げている。その絶大な効果はもちろん、自宅で手軽に、自身でアレンジが楽しめるオーディオアクセサリであることも人気の要因になっているはず。今回はそんな「Crystal E」をもう1台増設したらどうなるのか? 本機にはあらかじめ増設用の端子が用意されており、これを試さない手はない。そこで前回もレポートを担当した炭山アキラ氏が“2台使い”の効果を検証。と同時に同社からラインアップされている2種類のアースケーブルの比較、最後に新発売の電源タップ「Crystal3P」もレポートしよう。

Text by 炭山アキラ Akira Sumiyama Photo by 田代法生

「クリスタルE」を増設
音場の深さがさらに向上し
より奥深い音像定位する

都会へお住まいの人、それも集合住宅、なかんずく工場やオフィス街が隣接している環境の人にとって、オーディオは何かと大変である。電源の汚れ具合も田舎の比ではないし、強電界ならラジオ電波などの高周波の飛び込みも飛躍的に多くなる。さらに問題となるのが、アース電位だ。「わが家は3Pのコンセントと電源ケーブルを使っていないから、アースは大地に落ちているよ」という人でも、集合住宅のアースには、時にとんでもないノイズが乗っていることがあり、下手をするとそれがそのまま機器へ逆流してしまったりするから、アースの問題は根深い。そんな時、役立ってくれるのが「仮想アース装置」である。外部のノイズに晒されることなく、機器のアース電位のみを整えてくれるという装置だ。面白いのは、ただアース電位を下げるといっただけでなく、明らかに音質へポジティブな影響をもたらす製品が結構あることである。それも、製品個々によって音質傾向が結構違う。サウンド・チューニングの一助とも